

第1回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会

会議概要

1. 日時：令和5年6月12日（月） 14：00～15：30
2. 場所：石川県庁11階 1101会議室（WEB会議併用）
3. 出席者：由比委員、有田委員、中村委員、馬場先委員、嶋崎委員（笹原委員代理）、西出委員（桑島委員代理）、舟川委員、加藤委員、森田委員、竹沢委員、鈴見委員、桜井委員、嶽野委員（宮元委員代理）、西村委員（宮橋委員代理）、中谷委員（井出委員代理）、田村委員、大家委員（村山委員代理）、庭田委員（油野委員代理）、前田委員（岸委員代理）、渡辺委員（川口委員代理）、杉谷委員（寶達委員代理）、山内委員（小泉委員代理）
4. 会議次第
 - (1) 開会
 - ・ 事務局の司会進行により開会された。
 - (2) 挨拶
 - ・ 石川県土木部長の鈴見委員から挨拶が行われた。
 - (3) 議事
 - 1) 設置要綱について
 - ・ 事務局より委員会の設置要綱について説明が行われた。
 - 2) 委員紹介、委員長の選出
 - ・ 各委員の紹介がなされた。
 - ・ 委員の互選の結果、由比委員が委員長に選出された。
 - ・ 由比委員長より、就任の挨拶がなされた。

（議事公開の確認）

 - ・ 委員長より議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。 - 3) 第1回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会 資料説明
 - ・ 事務局より委員会資料に関する説明が行われた。

（質疑）

 - ・ 各委員からの主な質疑・意見内容については、次頁以降に示す。

（議事概要及び資料公開の可否について）

 - ・ 委員長から議事概要の公開について確認が行われ、委員の承認を得た。
 - (4) 閉会
 - ・ 事務局の進行により閉会された。

1) 事務局より、「資料3：第1回 加越沿岸海岸保全基本計画検討委員会資料」の説明が行われた。

2) 各委員からの主な質疑・意見

①これまでの海岸法のあらまし

- ・ 特になし。

②これまでの海岸保全事業の流れ

- ・ 特になし。

③現在の加越沿岸海岸保全基本計画の概要

- ・ 海岸の整備に際しゾーン区分を行い整備が実施されているが、重要文化的景観区域や伝統行事などの状況を勘案し、ゾーン区分や名称を見直してほしい。
- ・ 対象となる海岸の動植物、植物群落等について、別途専門家によるレッドデータブック作成のための調査・検討がなされていることから、各地域の自治体、住民の注意を喚起し、理解を深めるとともに、適宜情報を共有することが望ましい。

④現在の海岸事業の取組状況

- ・ 特になし。

(各市町の委員より海岸保全に対する思い・意見)

- ・ (白山市) 白山市は石川海岸に面し、日本海特有の波浪の影響を受けやすい海岸であるものの、直轄工事の実施に伴い現状背後地の安全性が向上している。しかし、近年の気候変動に伴う海水面の上昇により沿岸地域への影響も懸念される。本委員会を通じて海岸保全事業が一層推進されることを期待する。
- ・ (加賀市) 冬季波浪などにより前浜の消失などが確認されており、侵食対策として礫養浜などが実施されている。片山津海岸は、平成26年度の保全対策技術検討会において、礫養浜が採用され、事業が進められている。海岸線の後退は、防災面や観光面からも非常に影響が大きいため、将来に向けて予防保全が重要と認識している。
- ・ (小松市) 国の事業により石川海岸小松工区においては、現状、砂浜の復元など効果が確認されている。今後、気候変動による海面上昇の影響により、波浪による侵食や越波による浸水被害のリスクが高まっていることを受け、現在実施している礫養浜の早期整備完了を求めるとともに、気候変動を見据えたハード対策についても検討を頂きたい。

- ・（能美市）能美市北部の吉原海岸において海岸侵食が進行しており、地域住民の伝統行事である「吉原釜屋盆迎えおしょうらい」の実施等に影響が出る懸念がある。近年、土砂投入等も実施されていることから、今後も伝統行事を守る上でも海岸管理を実施いただきたい。
- ・（金沢市）現在、石川県により金沢海岸侵食対策事業が進められている。また、今年度は、打木地区で最後の人工リーフが完成する予定と聞いているが、引き続きモニタリング等を実施して頂きたい。気候変動による海面潮位の上昇については、都市側からの排水機能の低下や都市内の浸水被害にも影響を及ぼす側面もあることから、そのような観点でも検討を進めて頂きたい。
- ・（かほく市）かほく市は海岸線を約 10km 抱え、その海岸線に沿ってのと里山街道が並走するなど、日本海が一望できる区間である。平成 12 年以降、石川県により人工リーフの設置工事が進められ、現在は 9 基目となる秋浜地区の人工リーフの工事が行われている。また、かほく市北部の海岸でも侵食が顕著になっていることから、本委員会において今後の保全計画の全体像を議論いただきたい。
- ・（羽咋市）羽咋市は千里浜海岸や一の宮海岸、柴垣海岸などを抱え、特に千里浜海岸は車で走れる海岸として有名である。その千里浜海岸について、平成元年代には、砂浜が約 60m あったものの、現在では 30m ほどであり、波浪時には砂浜が消失し、車が走行不能となることもある。このような中、千里浜再生プロジェクト委員会が発足し、対策を実施中であり、人工リーフの設置など、面的防護が進められている。千里浜海岸は、「侵食防止祈願祭」や小学生を対象とした「千里浜海岸ものしり教室」の開催、観光客参加型として「一人一砂運動」などを実施しており、SSTRなどのイベントを含め、多様な利用がある。
- ・（内灘町）内灘町は、マリンスポーツや海水浴客で賑わい、波打ち際まで 200m もある広大な砂浜は自慢となっている。本年 5 月には「世界の凧の祭典」が開催されるなど、海岸利用を通じた賑わい創出に期待している。一方、河北潟放水路以北では海岸侵食が進み、砂浜が減少する区間もあることから、養浜事業などを要望している。今後、海岸を訪れる町民や観光客が気軽に集う賑わいスポットとなっていくことを期待する。
- ・（宝達志水町）押水羽咋海岸のうち、宝達志水町が該当する箇所でも千里浜再生プロジェクトが進められ、石川県を中心にハード対策、ソフト対策が進められている。昨年度羽咋側の 4 基目となる人工リーフも完成したが、まだまだ砂浜幅が狭い箇所もあり、特に出浜海岸付近では高波浪による被害も顕著である。引き続き、砂浜幅の回復に向けた対策をお願いしたい。また、宝達川左岸側から前田川右岸の区間においては、砂浜がほとんどなくなっている地区もある。今後、そのような箇所にも目を向けてもらい、さら

なる海岸保全をお願いしたいと考えている。

- ・ （志賀町）志賀町は加越沿岸と併せて能登半島沿岸の地域も含んでおり、海岸線が長い町である。そのうち、巖門や日本小貝の3名所である増穂浦があり、桜貝の小貝が打ち寄せる美しい砂浜がある。増穂浦では、石川県で人工リーフの工事が進められている。後世に伝えていくべき海岸保全の施設と言うことで、今回の海岸保全基本計画の検討が有意義に進むことを期待する。
- ・ （委員長）各市町の委員の方々から紹介していただいたように、石川県の海岸は、非常にバラエティに富み、美しい海岸線を有しているため、局所最適ではなく、全体としてバランスの取れた全体最適という広域的な視点から事業計画の遂行、及び、モニタリング、予防保全の活動を推進してほしい。

⑤気候変動を踏まえた海岸保全基本計画の見直し方針

- ・ 気候変動のシナリオに基づく海岸への影響は深刻になると想定され、海面上昇に伴い砂浜面積が減れば防護への影響のみだけでなく、生物等への影響もでる。潮位、波浪、海面水温などに加え、砂浜への影響も含め検討を進める必要がある。
- ・ 加越沿岸における砂の広域的な動きは未解明な点も多く、今後の委員会で、全体の砂の動きを何か示せると理解が進むと思われる。
- ・ （委員長）関係する諸機関の皆様に協力していただき、広域的な視点をできるだけ盛り込みながら進めていければと考えている。

⑥今後のスケジュール

- ・ 特になし。

以 上